

○ ジェトロが香港・台湾で農水産物商談会、和牛の潜在需要を確信

ジェトロが主催する農水産物・食品輸出商談会が2月25日から3月2日まで香港・台湾で開かれた。日本産食品の輸出促進を目的に国内食品事業者などを派遣し、現地バイヤーとの商談につなげるもの。このうち畜産関係では、香港の日航ホテル香港で開かれた商談会にミートコンパニオン、飯島畜産、いわて門崎丑牧場の3社が出展、会場には輸入商社や卸事業者、外食・量販バイヤーなどジェトロ招致の香港、マカオの食品関係会社54社が訪れ賑わいを見せていた。



消できない、さらに、日本の食文化を含めた商品提案も必要になっており、日本以外の和牛の進出対策も重要にな

このうちミートコンパニオンのブースでは、ブロック肉から切り分けて展示用商品を作るなど積極的な展示が行われた＝写真。また飯島畜産では食肉加工品の試食が積極的に行われ、いわて門崎丑牧場では和牛の生産現場を説明した。展示会に参加したミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役によると、今回の出展の目的として、現地のリサーチとニーズの把握に重点を置いていると説明している。植村氏によると、数年前は100g当たり250香港ドル程度の和牛の高級部位しか並んでいなかった売り場に、最近では和牛のウデや肩ロースの商品アイテムが100～150/香港ドルで並ぶようになっているという。このため「現地に足を運びリサーチやニーズの把握をしない限り、これ以上の販売量や偏った部位偏重は解

ってくる」と訴える。このためミートコンパニオンは会場で、日本に来て実際に食文化に触れるよう来場したバイヤーに勧め日本から持参した「和田金」のパンフレットを渡すなど、自社の商品紹介に止まらず和牛全体のアピールを行っていた。

植村氏によると、ここ香港市場は地理的にアジアの中心に位置しており、人・物が集積する拠点となり、日本からの農林水産・食品輸出は6年連続で世界1位を維持しているという。4,860万人の観光客が訪れ、このうち中国人が72%を占めるなどアジア情報発信の拠点になっている。香港市場には「安心・安全神話」の崩壊と持続的な円高と積極的なリサーチ不足から魅力的な商品提案に弱さが見られており、台湾産の巨峰や米国産の純粋黒豚などが市場に広がってきているという。

△ 乳雄去勢（B2、B3）パーツ相場（4日） モモ系に引き合い

部 位	価 格	概 況	部 位	価 格	概 況
かたロース	1,350円中心	続落	うちもも	1,050円中心	強保合
ウデ	1,000円中心	保合	しんたま	1,050円中心	強保合
かたバラ	950円中心	強保合	らんいち	1,050円中心	強保合
ヒレ	3,500円中心	弱保合	そともも	1,000円中心	強保合
ロース	2,300円中心	保合	スネ	780円中心	保合
ともバラ	780円中心	保合			

(注) かたロースはネック付

【概況】 出荷頭数が少ない中で物は動く。かたロースは苦戦も、輸入物の玉薄を反映してモモ系の引き合い多い。うちもも、しんたまなど1,050円中心に上げる。しかし枝高、末端安で採算は良くない。また、3月中旬以降は歓送迎会向けにロイン系の引き合いも入る。来週以降がピークで、唱えも上昇か。米国産牛肉の新月齢基準の玉も3月2週には入港するが、為替や現地高の影響で極端に多くないといわれ、ホルスへの影響は今のところ出ていない。